

# 高温注意！高温に対する水稻管理

恵那農林事務所農業普及課 東濃農業共済事務組合 J A ひがしみの

7月9日の梅雨明け以降は、気温の高い日が続いています。

稲は気温が高すぎると光合成ができず、十分にデンプンを作ることができません。小粒・痩せ細った状態になる「登熟歩合の低下」や、米粒内部に白濁が発生する「白未熟」、玄米の横断面に亀裂が入る「胴割粒」の発生します。

東海地方の一月予報によると、稲の高温障害が発生しやすい気温になっていますので、以下を参考に対策をお願いします。

## 高温対策：水管理

- ① 早期落水は絶対に行わない。
- ② 登熟期に1～2日おきの間断灌水を行う。
- ③ 夜間通水をして飽水状態をできるだけ収穫間際まで維持する。

## 〇コシカの水管理（イメージ）

| 時期          | 生育ステージ | 水管理            | 備考                                   |
|-------------|--------|----------------|--------------------------------------|
| 7/下<br>～8/上 | 出穂開花期  | 飽水状態           | 高温時、かけ流しや深水等により地温を下げる水管理が効果的。        |
| 8/上<br>～8/下 | 登熟期    | 間断かん水～<br>飽水状態 | 入水と落水を交互に繰り返し、田面の硬さを保つ。              |
| 8/中<br>～9/中 | 収穫期    | 落水             | 極端な早期落水は品質低下になるので注意。過剰乾燥する場合は走り水をする。 |

※時期は品種により異なります。

## 適期収穫

今年は早生品種の出穂が早まっていますので、全体的に平年より収穫時期が早まりそうです。数日の刈遅れが品質低下の原因となりますので、適期収穫に努めましょう。

緑色の籾の割合が15～10%になった時が収穫開始で、5%までが収穫適期となります。

